



令和5年度中部地区母子寡婦福祉研修大会

と き：令和5年9月10日（日）

と ころ：福井県生活学習館ユー・アイふくい

参加者：約400名

富山県	25名
三重県	31名
愛知県	22名
石川県	41名
岐阜県	30名
福井県関連	250名

本大会は、中部地区母子寡婦福祉団体関係者が一堂に集い、研修討議を行い、自分たちの果たす役割を再認識するとともに、関係機関への要望を決議して、ひとり親家庭や寡婦の自立及び子どもの健全な育成支援のさらなる充実を図ることを目的に開催しました。福井県での開催は平成26年以来で、9年ぶりの開催です。

メインテーマ 「つなごう人の輪、守ろう地域の輪」（全国統一テーマ）

主 催	一般財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会 中部地区6県母子寡婦福祉連合会 一般財団法人福井県母子寡婦福祉連合会
後 援	福井県 福井市 社会福祉法人福井県社会福祉協議会



開会式

開 会 宣 言

黙 禱

秩父宮妃殿下「御歌」斉唱 「母に幸あれ」

主催者挨拶

一般財団法人福井県母子寡婦福祉連合会会長

一般財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会

副理事長

来 賓 祝 辞 福井県知事

西本福井県議会議長

稲田朋美衆議院議員

高木毅衆議院議員

滝波宏文参議院議員

伊藤福井県社会福祉協議会副会長

歓迎のことば 東村福井市長

来賓紹介 祝電披露



行政説明

こども家庭庁支援局 家庭福祉課
企画調整官 胡内 敦司 氏
「ひとり親家庭等への支援施策について」
子ども家庭庁について
ひとり親家庭支援
子育て・生活支援
就業支援
養育費確保支援
子ども未来戦略方針 など



研修討議

コーディネーター 加藤 まどか氏 (福井県立大学准教授)

討議テーマ
①「目指そう自立、活かそう支援策」
②「母子と寡婦、共に育む子どもの未来」
③「すべての子どもに笑顔と希望を」

助言者
胡内 敦司氏 (こども家庭庁支援局家庭福祉課企画調整官)
井関 真喜子氏 (福井公共職業安定所 業務次長)
廣部 真寿美氏 (福井県健康福祉部児童家庭課長)
滝本 美津代氏 (全国母子寡婦福祉団体協議会副理事長)

意見発表
石川県母子会との出会い
棒田 亜希氏 (石川県)
目指そう自立、活かそう支援策
清水 里絵氏 (岐阜県)
フードドライブに感謝と SDGs
出口 枝美氏 (富山県)
学習支援事業を通して
武舎 妙子氏 (愛知県)
すべての子どもに笑顔と希望を
中村 深優氏 (三重県 高校一年生)
親とあなたの笑顔が子どもの笑顔と希望につながる
前川 昭代氏 (福井県)





アトラクション

会員の子どもと
ダンススタジオ JIGGY
による
ウェルカムダンス



アトラクション

会員による
イッチョライ節



賛成多数で大会決議が採択されました。

大会決議

私たちは、令和5年度中部地区母子寡婦福祉研修大会において、ひとり親家庭及び寡婦の福祉の向上を図るため次の事項を決議し、その実現を国及び関係機関に強く要望します。

- 1 子どもの貧困対策として、子供の将来が、その生まれ育った環境に左右されることなく希望する進路が選択できるよう、進学を経済的に支援するための給付型奨学金対象枠の拡大を要望します。また、高等教育の授業料・入学金免除の支援対象世帯および大学・専門学校等対象校の拡大を要望します。
- 1 児童扶養手当制度については、所得制限の収入認定額が緩和されるとともに同居親族の所得要件や第2子以降の支給額のさらなる増額など、生活実態に合わせて見直しされることを要望します。
- 1 平成25年3月に実施された「母子家庭の母及び父子家庭の父の就業支援に関する特別措置法」に基づき、ひとり親家庭の自立のため、自治体や地元企業で正規雇用の拡大を図るなど、積極的な支援の取り組みを要望します。
- 1 養育費の確保が十分出来ていない現状において、養育費の支払いの義務を法律によって強化するとともに、養育費を支払う側に養育費控除を新設するなど、養育費の支払い履行を確実なものとする制度作りを要望します。
- 1 ひとり親家庭の「医療費助成制度」については、各都道府県自治体により、助成する内容や自己負担額に格差が生じています。居住地にかかわらず格差なく負担をし、あるいは助成が受けられるよう国による新たな助成制度の創設を要望します。
- 1 所得税・地方税において、未婚の母に対してのひとり親控除は認められましたが、扶養親族のいない生別寡婦に対して寡婦控除と同様の控除が適用されるよう要望します。
- 1 自動販売機の設置や売店の運営管理については「母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法」に基づき、優先して母子・父子家庭福祉団体に発注されるよう要望します。また、事業主に対しても発注の働きかけをされるよう要望します。

令和5年9月10日

中部地区母子寡婦福祉研修大会 参加者一同

母子寡婦の福祉向上 福井で400人議論

中部地区研修大会

本年度の中部地区母子寡婦福祉研修大会が10日、福井市の県生活学習館であった。北陸3県と富山、三重、岐阜各県から約400人が参加し、ひとり親家庭や夫



をしくした女性らの福祉向上に向け、意見を交わした。全国母子寡婦福祉団体協議会、福井県母子寡婦福祉連

シンポジウムなどを通じ、ひとり親家庭などの福祉向上を考えた研修大会。10日、福井市の県生活学習館

……
会会などが主催。研修大会は6県持ち回りで開いており、福井県内では9年ぶり。

「目指そう自立、生かそう支援策」などをテーマにしたシンポジウムでは、6県の代表者が自身の経験を基に発表した。福井県の代表者は「ひとり親は社会から孤立しがちで悩みやスト

レスを抱え込むことが多い」と強調。当初は母子寡婦福祉連合会への入会をためらっていたが、会での交流を通して自身や子どもの笑顔が増えたとし、情報交換などができる身近なコミュニティの役割が大事と訴えた。

大会では、▽給付型奨学金対象枠の拡大▽自治体や地元企業での正規雇用の拡大―など、国や関係機関への7項目の要望を決めた。

(山川竜平)